

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【静岡県】

学校名【伊豆の国市立萠山中学校】

1実践テーマ	I・II・III・IV V （複数選択可）
2実施対象者	3年生 5クラス 155名 特別支援学級 7名 教員12名
3展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（○ 総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4目標	日常生活の目標を達成することは、自己の可能性を伸ばし、より高い目標を目指し、人生を切り拓いていく原動力となり、次のより高い目標に向かって希望と勇気をもって着実に努力する意欲を引き起こすことにつながる。この積み重ねの中で、やり抜く強い意志をもつ。生徒の中に、人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望が育まれてくることを目標とする。
5取組内容	1. 事前学習 2. 講演・実技体験 講師：若山 英史 様 プログラム ① 講師紹介 ② デモンストレーション及び講演 演題「感謝の気持ちを伝えよう」 ③ 車いすラグビー体験活動 ④ お礼の言葉 3. 振り返り

6主な成果	<p>「けがをして辛い思いをされてからのほうが今までより良い人生を歩まれているというのが衝撃でした。」</p> <p>「生きること、学ぶこと、運動すること、何をするときにも家族、友人、先生、コーチなど様々な人に支えられているということに改めて実感しました。」</p> <p>これらは生徒の感想用紙からの抜粋です。このように生徒の心に響く講話であったことは明らかです。事前計画書の目標にも掲げたように、生徒の中に、人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が少なからず養われ、生きることへの希望が育まれたのではないかと感じています。</p>
7実践において工夫した点	<p>講話を通して「周囲に支えられて生きている」ということを分かり易く伝えていただいた。日本代表、世界での活動について話しながら、「周囲に感謝の気持ちを伝えること」の重要性について触れていただいた。</p> <p>若山さんに車椅子ラグビーのデモンストレーションを行っていただき、その後、全生徒で車いすのタックルを体験した。その後、代表生徒や教員が車椅子ラグビーの体験をみんなの前で行った。体育館全体が盛り上がり、参加者の一体感も高まったように感じられた。</p>
8主な課題等	<p>ハラルリンピックの派遣依頼を学校ごとに直接行うことがやはり難しいのではないかと思います。</p> <p>本校はセンターポールを通じて派遣をお願いすることができ、大変ありがたかったです。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>「本物」との出会いは、子供たちの心に好奇心の火をつけます。心は大きく動き、憧れの気持ちを抱きます。「本物」に触れることは同時に「見える眼」「感じる心」「心に響く言葉」と触れることとなります。子供が生涯にわたって「幸せにたくましく生き抜く力」を身につけるために来年度の実施も検討したいと考えています。</p>

